

# 東京女子大 築85年の旧体育館を解体



東京女子大（東京都杉並区）の旧体育館をめぐり、学内が揺れている。築八十五年のモダニズム建築だが、大学側は「避難場所を兼ねた広場にする」と解体を決定。一方で教員や学生、卒業生から「文化的価値が高い」「トンジヨ（東女）の味を消さないで」と保存を求める声が上がっている。

## 「トンジヨの味消さないで」 高まる 保存の声

旧体育館は日本の建築界に影響を与えたチエコ出身の建築家・レーモンドが設計、一九二四年に完成した。鉄筋コンクリート二階建てで一部が瓦ぶき。光を取り込む大きな窓と、一階の床が地面より低く天井が高いため開放感があり、館内の五つの部屋に暖炉があるのも特徴だ。

大学側は二〇〇六年五月、キャンパス整備の一環で旧体育館の解体を決定。だが、昨年二月、当時、大学院生の田代桃子さんと、大学三年の齋藤治子さん



（小川慎一）

が共著で「旧体育館は創立者の教育哲学を具現化したもの」との論文を発表。保存を求める声が高まった。今年二月には哲学科が共著で「旧体育館は創立者の教育哲学を具現化したもの」との論文を発表。保存を求める声が高まった。今年二月には哲学科

①東京女子大の旧体育館 ②旧体育館内の暖炉のある部屋（いずれも学生提供）



### 再考を求め「重文級の近代建築」

桃井明男事務局長は「歴史的価値は理解している。新しい研究棟と体育館がすでに建設され、狭いキャンパスの中で学生のことを考えれば、解体せざるを得ない」と説明する。保存派は二十日、学

外の人も参加できる卒業生と建築家を招いた座談会を旧体育館で開く。企画した齋藤治子さんは「旧体育館の暖炉前は、ひざをつき合わせて話す社交場もあった。その歴史を体験してほしい」と呼び掛けている。

座談会の参加は十八日まで電子メール（health-exercise@lab.twcu.ac.jp）で申し込む。問い合わせは、森教授（哲学研究室）へ電03（53082）6324へ。